

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 7年 4月 30日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3471300214		
法人名	社会福祉法人 若葉		
事業所名	高齢者グループホーム「潮の香」		
所在地	広島県尾道市因島中庄町4804番地		
自己評価作成日	令和7年4月1日	評価結果市町受理日	令和7年6月3日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3471300214-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和7年4月23日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

<p>コロナ等感染症の影響でご家族や地域、他事業所との交流を自粛していたが、昨年より徐々にご家族との交流会や外出を再開している。事業所は、耕作地に隣接して建っており、周りには小学校やスーパー等がある。気候の良い時期は職員と一緒に散歩をしたり買い物へ行っており、季節を感じる事ができる。</p>
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

<p>法人は高齢者・障がい者を総合的に支援し「すべての人が地域社会で普通の生活をする」を理念に掲げている。高齢者グループホーム「潮の香」では「すべての人が地域社会で普通の生活をする。そんな地域をつくる。地域の行事や活動に積極的に参加する。」を目標に掲げている。地域との交流、地域行事への参加だけでなく、法人の「はばたき祭り」を地域の祭り「十七夜」として合同で開催し地域に貢献している。年に一度開催している地域の火災、水害訓練に参加し地域の一員として活動している。尾道市から福祉避難所の指定を受け対応している。利用者が地域との繋がりを継続できるよう島内での外出活動、昔からの馴染みの店に通えるよう支援している。</p>
--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	毎朝の引継ぎの際に、「法人の理念」と「潮の香目標」を職員全員で唱和しており、共有と実践につなげている。	法人理念、事業所目標を事業所内に掲示し朝礼時に職員で唱和している。法人理念「すべての人が地域社会で普通の生活をする」、事業所の年間目標「地域の行事や活動に積極的に参加する」をもとに利用者とともに地域行事への参加や日常的に地域との交流が図れるよう工夫している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の防災訓練、道普、ごみステーションの掃除のほか、常会（定期的な会議）や各種地域行事に参加して地域の一員として交流している。また、地域の理容院を使うなどの配慮をしている。	事業所は町内会に加入し3ヵ月に1度町内会議に参加している。自治会長、関係者で地域行事を計画し、事業所で開催していた「はばたき祭り」を「十七夜」と合同で開催し地域のお祭りを発展させている。実習生の受け入れや地域の小学校の授業の一環で事業所で受け入れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	事業所の5階が福祉避難所となっている。また、地域の夏祭りに合同で参加予定にしていたが、感染症対策のため縮小され参加できていない。今後、機会があれば地域の夏祭りに参加し、利用者も一緒に祭りを楽しむ予定。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	感染症対策のため外部の委員の方を交えた運営推進会議はR6年度は2回に止まったが、その他は潮の香内で運営推進会議を行い、委員の方には後日報告書を配布している。	感染症対策で対面での会議が開催できない時期は議事録を家族代表者、地域包括支援センター、区長、民生委員、住民代表へ配布している。地域包括支援センターから協力依頼を受け、地域の認知症の方に対する見守り支援を実施している。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	介護保険の更新・区分変更時は、市役所を訪問している。また、必要時には尾道市役所の担当者に問い合わせをしたり、訪問して助言を頂いている。	運営推進会議への参加の依頼、議事録を送付している。介護報酬の取り扱いについて管理者が市役所を訪問し顔なじみの関係を築いている。生活保護の受け入れや事業所の空き状況の相談を市役所から受け対応している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践</p> <p>代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。</p>	<p>運営推進会議のタイミングで身体拘束適正化委員会を行い、職員間で話し合っている。研修会を行った際には全員がレポートを提出して理解を深め、身体拘束をしないケアを心がけている。</p>	<p>事業所玄関、利用者の居室からテラスには自由に出入り出来るよう施錠はしていない。身体拘束適正化委員会を2ヶ月に1回開催している。法人研修を年に2回、外部研修にオンラインで参加している。研修後は職員がレポートを作成し日々の業務に活かしている。</p>	
7		<p>○虐待の防止の徹底</p> <p>管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている。</p>	<p>法人研修や身体拘束適正化委員会の中で虐待防止について学習したり、日々のケアの振り返りを行い、虐待につながるケアがないか皆で意見交換を行い虐待防止に努めている。</p>		
8		<p>○権利擁護に関する制度の理解と活用</p> <p>管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。</p>	<p>研修の機会があれば積極的に参加するように努めている。研修後は伝達研修を行い、職員全員が認識できるように努めている。</p>		
9		<p>○契約に関する説明と納得</p> <p>契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。</p>	<p>契約時は十分な時間を取って契約書と重要事項説明書などの説明を行っている。不安や質問等には丁寧に対応して、理解と納得を図っている。</p>		
10	6	<p>○運営に関する利用者、家族等意見の反映</p> <p>利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。</p>	<p>ご家族と運営推進委員の方を交えた交流会を再開した。交流会や面会時には直接話をするようにしており、いつでも管理者とLine交換ができ、対応している。</p>	<p>昨年度、年に2回家族交流会を開催している。開催時に家族アンケートを実施し、意見を求めている。意見からオンラインでの面会、動画、写真の提供を実施し意見を反映している。面会時、電話連絡時に家族の意見、要望を伺い運営に繋げている。利用者の意見、要望は日頃の関りで確認し、申し送りノートで職員間で共有し実施に繋げている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	毎月1回の潮の香会議には法人の相談役、はばたきセンター長も出席しており、職員が遠慮なく意見交換を行っている。提案や要望を直接言える機会があり、反映することができている。	毎月事業所の定例会議で職員の意見を聞く機会を設けている。調理用のエプロンの購入、休暇の取得など職員の意見を法人に伝え意見を反映させている。月に2回法人の代表者会議があり事業所で判断できないことはセンター長が法人へ伝え職員の意見の反映に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	毎月1回の潮の香会議には法人の相談役、はばたきセンター長も出席しており、職員の思いを聞き、実態把握に努め、働きやすい環境整備に努めている。また、昇格の機会がある。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	研修案内は全員が回覧し、参加を進めており、希望があればシフトを調整して参加の機会を確保している。研修後は伝達研修を行い職員のケアの質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナ感染症の影響で今は出来ていないが、近隣の福祉事業所の集まりに加入し、職員との交流や研修会企画などに参加してサービスの向上に取り組んでいた。わからないことがあれば同業者に問い合わせるなどの交流は行っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	職員全員で本人の言葉やしぐさ、行動などを観察して気づきを共有して、本人の困り事の解決に努め、要望には柔軟に対応して関係づくりに努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		<p>○初期に築く家族等との信頼関係</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。</p>	<p>契約時には、ゆっくり時間を取って、家族の話の伺い、家族が求めることと、施設が出来る事のすり合わせを行い、不安なこと、要望などに耳を傾けて関係づくりに努めている。</p>		
17		<p>○初期対応の見極めと支援</p> <p>サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。</p>	<p>本人、家族と話し合い、ニーズを把握して支援できるサービスと出来ないサービスを見極めて説明を行い、必要があれば他事業所と連携して対応に努めている。</p>		
18		<p>○本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。</p>	<p>本人の出来る事をできる形で継続していく。洗濯物たたみなど、自分の事だけでなく、他の人のためにすることで、利用者と職員間で感謝の言葉の交換ができており、ともに過ごし支え合う関係を築いている。</p>		
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。</p>	<p>面会の機会があり、時間の制限は設けているが自由に会って話をする事ができる。また、動画を送ったり、希望があれば電話でお話できるように支援しており、良い関係が継続できるように努めている。</p>		
20	8	<p>○馴染みの人や場所との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。</p>	<p>入所前からの主治医を継続したり、馴染みの理容院等の利用を継続する等の支援を行っている。友人やご近所の方の訪問もあり、関係が途切れないような支援に努めている。</p>	<p>町内の文化祭に利用者と参加し地域との関係を続けている。家族の協力を得て外出、外泊を可能としている。手紙や年賀状作成の支援、利用者個人の携帯電話で家族や知人との関係が途切れないよう工夫している。ホームセンター、スーパーへ利用者と買い物に出かけている。行きつけの店へ事業所が協力し利用できるよう工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が間に入りパイプ役を務めながら、皆さんが笑顔で生活できるような支援を心がけている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	柔軟に対応している。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	1人ひとりの希望や思いを日々の支援や会話の中で感じ取り、把握に努めている。また、連絡帳や潮の香会議を利用して、職員間で情報を共有して本人に寄り添った支援に努めている。	利用開始時に利用者、家族、関係者から意向を伺い帳票を作成している。利用者との日頃の関りで思いや意向を把握し連絡ノートに記載し申し送り、定例会議で職員間で情報を共有している。嗜好調査を不定期で実施し、日頃の会話の中から出た意見は連絡ノートに記録し把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時や日々の生活の中で本人や家族から話を聞いている。必要に応じてこれまでに利用していた事業所から情報を得ている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	日々の生活支援の中で、状態の変化や気づきを申し送りや連絡帳で細目に情報交換を行い把握に努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	<p>○チームでつくる介護計画とモニタリング</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>毎月の会議で意見交換と本人や家族からの要望を持ち寄り現状に即した介護計画を作成している。</p>	<p>モニタリングは毎月実施し、介護計画書は6カ月に1回、利用者、家族へ意向を確認し作成している。利用者が今できていることを大切に、掃除、洗濯物たたみなど、役割を持ち生活できるよう計画に反映させている。</p>	
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>	<p>毎日、個別にケース記録を作成している。通院時などは別に記録を記入している。毎日の申し送りや会議などで情報を共有して実践や介護計画の見直しに活かしている。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。</p>	<p>法人内の事業所との連携、応援を受けて柔軟な支援を行っている。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。</p>	<p>コロナ感染症の影響前は地域の祭りや行事に参加していた。現在は徐々に地域の理容院を利用したり、ホーム以外の地域の人との会話を楽しむことができるよう支援している。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。</p>	<p>本人と家族の希望を第一に入居前の主治医を継続したり、納得が得られた潮の香の協力医のもとで適切な医療が受けられるように支援している。</p>	<p>利用開始時に事業所の協力医へ変更が可能なことを伝え、利用者、家族がかかりつけ医を選択している。通院は施設の職員が対応している。緊急時は管理者が主治医と連絡を取り適切な医療が受けられるよう連絡体制を整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		<p>○看護職員との協働</p> <p>介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>	<p>日々の健康チェックや気づきは、看護師、管理者、ケアマネに相談し適切な受診や看護を受けられるように支援している。</p>		
32		<p>○入退院時の医療機関との協働</p> <p>利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。</p>	<p>入院時は地域連携室や病棟と連携をとり定期的な訪問を行い、担当者とも話をして関係づくりを行っている。また、カンファレンスに出席して情報交換や相談ができるように関係づくりに努めている。</p>		
33	12	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援</p> <p>重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。</p>	<p>契約時に当ホームは、医師と看護師が常駐しないことを説明している。重度化や終末期のケアについては定期的に意思確認を行い、方針変更も視野に入れてかかりつけ医との協力体制に取り組んでおり、本人と家族に寄り添った支援を心掛けている。</p>	<p>利用開始時、適時に医療・看取りに関しての意向確認書で家族の意向を確認している。主治医に相談し事業所、主治医が対応可能な状態であれば看取りケアを実施している。家族が居室に泊まれる体制を整えている。居室のレイアウトや環境を本人目線で模様替えをしている。</p>	
34		<p>○急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。</p>	<p>事前にマニュアルを作り、会議で確認し合っている。また、法人内で消防による心肺蘇生の研修に参加してAED（自動体外式除細動器）の操作の訓練を定期的に行っている。</p>		
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。</p>	<p>法人内で年2回の避難訓練を実施している。また、地域の災害訓練にも利用者も一緒に参加している。運営推進会議では、協力体制を築くための働きかけを続けている。</p>	<p>年に一度消防署立ち合いのもと、実施している。夜間想定での火災訓練の実施、地域の避難訓練に年に1回参加している。ハザードマップを事業所に掲示している。市から福祉避難所の相談を受け指定を受けている。地域住民に福祉避難所として利用可能と発信している。備蓄品は3日分整えている。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	年長者に対する尊敬の念を持ち、職員からも利用者間でも誇りやプライバシーを損ねない言葉掛けと対応に努めている。	法人で接遇の研修を年に1回実施している。外部研修を受け事業所で伝達研修を実施している。利用者の部屋は家と捉え入室する場面では必ずノックをしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	外出の希望を叶える。入浴や行事の参加は本人の希望を優先しており、おやつや飲み物は複数の選択肢から自分で選べるように自己決定を日常的に支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	一日の大まかな決まりはあるが、それにはとらわれず、一人ひとりのペースに合わせて個別対応ができるように柔軟な対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	地域の理容院で定期的に散髪をして衛生的な身だしなみの支援をしている。また、個人の好みを大切にしている。希望があれば一緒に買い物に行き、自分で洋服を選べるように支援している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	献立の希望を受けたり、嗜好調査を行っている。旬の食材を使った料理を提供している。また、豆の皮むきを手伝ってもらうこともあり、食事からも季節を感じてもらっている。	朝食、夕食は事業所で調理し、昼食は法人で調理した食事を利用者と盛り付けている。事業所のテラスでトマト、ネギ、サツマイモ等を育て、利用者と一緒に収穫し食事に使用している。地域住民から季節の食材の差し入れや事業所でクリスマス、お正月などの季節に合わせた食事を提供している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		<p>○栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス，水分量が一日を通じて確保できるよう，一人ひとりの状態や力，習慣に応じた支援をしている。</p>	<p>毎食の食事量の記録を取り，一人ひとりの状態や嗜好に合わせて食材，食事形態，量，食器などを調整している。必要に応じて見守りや介助を行っている。</p>		
42		<p>○口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように，毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。</p>	<p>毎食後は口腔ケアの言葉がけを行い必要な方には介助を行っている。定期的に歯科の往診があり，口腔ケアを受けたり，必要に応じて治療を受けられる体制がある。</p>		
43	16	<p>○排泄の自立支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし，一人ひとりの力や排泄のパターン，習慣を活かして，トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。</p>	<p>個々の排泄パターンによる言葉がけやトイレ介助を行っている。自立されている方にも見守りやパッド交換の言葉がけ，排便の確認を行っている。</p>	<p>事業所には5ヵ所トイレがあり車椅子でも動き易いよう十分な広さがある。手すりの設置があり安全面にも配慮している。排泄記録表で排泄パターンを把握し，声掛けを行っている。一人ひとりにあった排泄用品を定例会議で検討し提供している。</p>	
44		<p>○便秘の予防と対応</p> <p>便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲食物の工夫や運動への働きかけ等，個々に応じた予防に取り組んでいる。</p>	<p>食事の工夫と水分補給に気を配っている。排便の記録を取り，便秘にならないように本人，家族，主治医と相談しながら服薬調整をしている。</p>		
45	17	<p>○入浴を楽しむことができる支援</p> <p>一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように，職員の場合で曜日や時間帯を決めず，個々に応じた入浴の支援をしている。</p>	<p>基本は2回/週のペースで入浴するが，本人の希望や状況に応じて入浴を支援している。</p>	<p>脱衣場，浴室に暖房を完備し安全面に配慮している。季節風呂ではゆず湯，菖蒲湯を実施している。事業所の浴槽での入浴が困難であれば法人の特浴を提供している。足浴を提供しており必要であれば血行促進のため毎日実施している。看取り期ではアロマセラピーを取り入れ清拭を行いリラックスできるよう工夫している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		<p>○安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。</p>	<p>居室と寝具の清潔に配慮しており、いつでも自由に休息できるように支援している。</p>		
47		<p>○服薬支援</p> <p>一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。</p>	<p>各自の服薬リストを作成して薬の効果や注意点・用法などの確認を行っている。薬の調整が必要な方にはチェック表を記入する等、個別に支援している。薬の変更時には連絡帳や申し送りで情報を共有している。</p>		
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>1人ひとりの得意な事や趣味が継続できるように支援している。また、テラスを散歩する等、本人の希望を伺って柔軟に対応している。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>即、希望に沿える日も、そうでない日もあるが、できるだけ希望に沿えるように努めている。時には他の事業所の支援を受けて支援している。</p>	<p>事業所には広いテラスがあり居室からテラスへ出入りができ、外気浴、近所の小学校、畑を眺めることができる。日頃から地域の散歩、スーパーへ出掛けている。外出計画を立て島内にあるHAKKOパークでバラを鑑賞している。家族の協力を得て外出や外泊が楽しめるよう支援している。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>本人や家族の希望でお金を所持する方がいます。状況に応じて管理を支援したり、買い物の支援を行っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>本人や家族からの要望があれば、電話やビデオ通話ができるように支援している。手紙や荷物が届けば、お渡しし、荷物が届いたことのお礼の電話を一緒にすることもある。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>共用の空間は、みんなで楽しむ団らんの場として活用している。壁の飾りや活花（生け花）などで季節感が味わえるよう配慮している。また、自分の作品が展示してあるスペースがあり、発表の場にもなっている。</p>	<p>リビングには季節の飾り、利用者の作品を展示し季節感を感じられる工夫がある。リビングの温度、湿度がいつでも確認できる設備があり、快適に過ごせる環境が整っている。テーブルの高さが調整でき利用者に合わせ対応している。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>廊下端の小空間、リビングの大空間、テラスとそれぞれに椅子やベンチなどを配し、自由に集い語る場所がある。希望があれば一人になれるようにテーブルを配置しており、柔軟な対応をしている。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>居室は、家族との写真を飾ったり、使い慣れたものをそのまま利用しながら、居心地の良い居室づくりを行っている。また、本人の状況に応じて家具の配置を工夫している。</p>	<p>利用開始時に利用者、家族、関係者に馴染みのもの、好みのものを確認し居室作りに取り組んでいる。窓には障子を設置している。馴染みの化粧品や家具の持ち込みがあり居心地よく過ごせるよう工夫している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>「自分のできること」が継続できるようにリビング内の椅子、テーブルの位置を工夫している。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ毎日のように <input type="radio"/> ②数日に1回程度 <input type="radio"/> ③たまに <input type="radio"/> ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	<input type="radio"/> ①大いに増えている <input type="radio"/> ②少しずつ増えている <input type="radio"/> ③あまり増えていない <input type="radio"/> ④全くいない
66	職員は、生き生きと働けている	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> ②職員の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③職員の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> ②利用者の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③利用者の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	<input type="radio"/> ①ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> ②家族等の3分の2くらいが <input type="radio"/> ③家族等の3分の1くらいが <input type="radio"/> ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 高齢者グループホーム「潮の香」

作成日 令和7年6月3日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	4・10	運営推進会議の開催時に利用者家族の代表者には案内をしているが全家族に案内をしていないので、出席できる方には出席してもらおう方が良い。	外部の運営推進委員さんを招いて行う会議では全家族に案内を出し1人でも多くの家族にの意見や要望を運営に反映させる。	毎月、請求書と一緒に送付している「潮の香だより」のお知らせ欄で運営推進会議の日時を知らせ、出席を促す。	3ヶ月
2	6	運営推進会議のタイミングで身体拘束適正化委員会・虐待防止委員会を行い報告書を作成しているが、運営推進会議の報告書にはその記録が無いので、記録に残した方が良い。	今後も運営推進会議のタイミングで身体拘束適正化委員会・虐待防止委員会を行い、運営推進会議の報告書に記録し、委員の皆様やご家族に潮の香の取り組みを知って頂く。	日常の業務の中での対応が身体拘束や虐待につながっていないか、2ヶ月に1回のタイミングで振り返りを行うことで身体拘束や虐待のない支援を行い、会議の内容を記録に残し委員の皆様とご家族にも共有する。	3ヶ月
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。